

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】
実施内容報告書

受託団体名 公立大学法人 熊本県立大学

1. 事業名称

・日本語教室を通した多文化共生促進事業

2. 事業の目的

・熊本に根差した生活日本語教材を作成(改訂)、普及させる。
・熊本市地域在住の生活者としての外国人に熊本で暮らすための生活日本語を教授する。
・日本人に多文化共生の意識づけをし、外国人との交流のきっかけを提供する。

3. 事業内容の概要

・昨年度の事業において「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案を参考に、県内在住の生活者としての外国人を対象とした生活日本語教材を作成した。その際得られた補助者や受講者の意見をもとにその教材の改訂を行い、更なる教材の実用化を図る。
・その教材を使って、今すぐ必要な日本語と生活のための知識を教えられ、そして、生活者としての外国人の置かれている状況を理解できる人材を養成する。
・養成した人材、および、日本語教育の経験のある指導者が、熊本市地域在住の生活者としての外国人に授業をする。これによって、養成した人材に日本語支援の場と外国人との交流の機会とを提供する。外国人への広報は熊本市、および、菊陽町の協力をあおぐ。
・県内に散在している外国人に対しては、インターネット上に日本語教育の教材を公開することで学習の機会を提供する。本教材は日本語支援ボランティアのための手引きも含んでいる。

4. 事業の実施体制について

本事業の中心は、熊本県立大学日本語教育研究室であり、以下のような連携体制のもと実施していく。
・熊本市国際交流振興事業団とは、熊本市内に住む外国人のための日本語教育支援、日本語支援ボランティア養成事業を長年協働して行っている。本事業はその延長線上に位置づけられる。
・熊本市は、東区・中央地区での、菊陽町役場は菊陽町での広報を担当する。
・熊本市国際交流会館は中国人への、熊本県フィリピン人会はフィリピン人への広報を担当する。
・熊本県立大学は、経理を担当、そして、大学コンソーシアム熊本との窓口となる。
それぞれの団体から運営委員を要請し、連携体制を実現する。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	馬場 良二	熊本県立大学 文学部
2	八木 浩光	熊本市国際交流振興事業団
3	谷尾 陽子	熊本市国際交流会館
4	中村 清香	熊本市シティプロモーション課
5	中川 恵一	菊陽町立 武蔵ヶ丘中学校
6	上田 憲史	菊陽町 人権教育・啓発課
7	松田アデラ	熊本県フィリピン人会
8	石松 靖浩	熊本県立大学 総務課財務班
9	大谷 万葉	熊本県立大学 地域連携・研究推進センター

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年4月23日 (木) 14:30~16:30	2時間	熊本県立大学 会議室	馬場良二、八木浩光、谷尾陽子、中村清香、上田憲史、大谷万葉、室屋暢美、泉千草、上村優季	1. 教材作成の途中経過報告 2. 前期取組内容の検討(チラシ案、スケジュール等)

2	平成27年9月24日 (木) 14:30～16:30	2時間	熊本県立大 学 会議室	馬場良二、八木 浩光、谷尾陽子、 中村清香(代 理)、中川恵一、 室屋暢美、泉千 草	1. 報告(教材作成、前期人材養成、前期日本語教室) 2. 後期取組内容の検討(チラシ案、スケジュール、改善点等)
3	平成28年2月26日 (金) 14:30～16:30	2時間	熊本県立大 学 会議室	馬場良二、八木 浩光、谷尾陽子、 中村清香、中川 恵一、上田憲史、 室屋暢美、泉千 草、上村優季	1. 全取組の報告 2. 今後について

6. 日本語教育の実施

(1) 活動名称

「今すぐ使える熊本日本語2015」日本語教室

(2) 目的・目標

・熊本市内や県内の生活者としての外国人が快適で安全に暮らしていけるよう、日本語と知識とを手軽に楽しく学ぶ。
・本事業の研修修了生が外国人と人間的な関わりを持ち、実情を知って、多文化共生社会構築の推進に積極的な役割を果たすようになる。
・各期ごとに教室運営全般に関して振り返り、次期教室そして今後の生活日本語教室運営に役立てる。

(3) 対象者

・熊本県内全域、主に熊本市東区・中央区、菊陽町で生活する外国人

(4) 使用した教材・リソース

・『今すぐ使える熊本日本語』改訂版

(5) 参加者の総数 38 人

そのうちの日本語学習者数 38人

【出身・国籍別内訳】

中国	6人	インドネシア	0人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。 ・アメリカ 13人 ・カナダ 3人 ・メキシコ 3人 ・ニュージーランド 1人 ・ポーランド 2人 ・イギリス 1人 ・オーストラリア 1人
韓国	3人	タイ	1人	
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	0人	フィリピン	4人	
ネパール	0人	日本	0人	

(6) 開催時間数(回数) 30 時間×2期=60時間 (全 15 回×2期=30回)

(7) 日本語教育の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
前期 1	H27.7.14(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	5	自己紹介 アイスブレイキング	・オリエンテーション ・初回アンケートの記入 ・自己紹介ゲーム ・テキストの配布と使用法の説明	室屋暢美	大住葉子、 泉千草、 上村優季
前期 2	H27.7.18(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	5	交通	・リーダーが導入(会話例の実践 や語句の説明など)部分を担当 し、補助者(リーダー以外の受講 生)が外国人参加者のそばでサ ポート(会話練習、訳など)を行 う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作 業など。 ・テキストが一通り終わったら、 雑談したり、テキストをさらに深く 勉強したり、という時間にあて る。	大住葉子	泉千草、 室屋暢美
前期 3	H27.7.21(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	5	台風	・リーダーが導入(会話例の実践 や語句の説明など)部分を担当 し、補助者(リーダー以外の受講 生)が外国人参加者のそばでサ ポート(会話練習、訳など)を行 う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作 業など。 ・テキストが一通り終わったら、 雑談したり、テキストをさらに深く 勉強したり、という時間にあて る。	上村優季	大住葉子、 泉千草、 室屋暢美

前期 4	H27.7.25(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	7	地震	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	泉千草	なし
前期 5	H27.7.28(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	5	緊急	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	大住葉子	泉千草、 室屋暢美
前期 6	H27.8.1(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	7	病院	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	上村優季	泉千草、 室屋暢美
前期 7	H27.8.4(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	5	買い物前編	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	大住葉子	上村優季、 室屋暢美
前期 8	H27.8.8(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	9	買い物後編	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草
前期 9	H27.8.18(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	6	外食	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季

前期 10	H27.8.22(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	5	学校前編	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草
前期 11	H27.8.25(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	*	学校後編 (前期14回目に実施)	台風のため中止	なし	なし
前期 12	H27.9.1(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	5	仕事前編	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	大住葉子	泉千草、 室屋暢美
前期 13	H27.9.5(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	7	仕事後編	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草
前期 14	H27.9.8(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	6	復習日1 (学校後編)	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草
前期 15	H27.9.12(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	6	復習日2	テキストを使用した全体の復習	泉千草	室屋暢美
後期 1	H27.12.5(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	9	自己紹介 アイスブレイキング	・オリエンテーション ・初回アンケートの記入 ・自己紹介ゲーム ・テキストの配布と使用法の説明	泉千草	室屋暢美、 大住葉子
後期 2	H27.12.8(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	11	交通	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季、 大住葉子

後期 3	H27.12.12(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	11	仕事	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季
後期 4	H27.12.15(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	10	買い物1	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季
後期 5	H27.12.19(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	6	緊急1	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季
後期 6	H27.12.22(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	5	緊急2	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	上村優季
後期 7	H28.1.9(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	6	病院1	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季
後期 8	H28.1.12(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	5	病院2	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季

後期 9	H28.1.19(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	6	地震	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季
後期 10	H28.1.23(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	5	台風	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季
後期 11	H28.1.26(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	7	学校	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季
後期 12	H28.1.30(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	6	買い物2	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草
後期 13	H28.2.2(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	7	外食	・リーダーが導入(会話例の実践や語句の説明など)部分を担当し、補助者(リーダー以外の受講生)が外国人参加者のそばでサポート(会話練習、訳など)を行う。 ・ゲームや会話発表、書き取り作業など。 ・テキストが一通り終わったら、雑談したり、テキストをさらに深く勉強したり、という時間にあてる。	室屋暢美	泉千草、 上村優季
後期 14	H28.2.6(土) 13:00-15:00	2	熊本県立大学	5	復習日1	テキストを使用した全体の復習	泉千草	室屋暢美、 上村優季
後期 15	H28.2.9(火) 19:00-21:00	2	熊本県立大学	6	復習日2	テキストを使用した全体の復習	泉千草	室屋暢美、 上村優季、 大住葉子

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【前期第9回 平成27年8月18日】

- ・日本のレストランに行ったことがあるか、困ったことがあるかなどの質問、ボランティアと参加者がフリートーク
- ・テキスト中の語句の確認
- ・テキストP.29の会話例をリーダーが実演し、ボランティアと参加者がペアで練習、そして発表
- ・テキストP.36を見ながらアレルギーや宗教上の理由で食べられないものがあるかどうかフリートーク



取組事例②

【後期第7回 平成28年1月9日】

- ・リーダーが日本の病院を受診したことがあるか、母国での医療事情はどうかなどの質問をして、参加者とボランティアがフリートーク
- ・テキストP.43の問診票に記入する練習
- ・パワーポイントを使って、テキストP.46&P.47の語句説明そして体の部位を覚える
- ・テキストP.44の会話をペアで練習し、発表



(9) 目標の達成状況・成果

※検証方法:外国人参加者への終了時アンケート、ヒアリング

・前期参加者への終了時アンケートで、漢字や方言などについても勉強したいという声があり、一斉授業形式の教室活動ではそれらの要望への対応に限界があったため、後期では一斉授業形式の時間を短縮し、ひととおりテキストの内容をみんなで学習した後は、その日のトピックに関して個別にさらに理解を深めたり、参加者とボランティアがおしゃべりを楽しむ時間を長く設けた。そのことでより一層「教えない教室」という形が実現しやすくなり、参加者の終了時アンケートにも「おしゃべりが楽しかった」という声が多く聞かれた。

(10) 今後の改善点について

・宣伝方法が偏っていた(インターネットがメイン)ため、外国人参加者の属性が偏ってしまった。高齢の帰国者や日本人の配偶者、ネパール人・ベトナム人などの留学生や技術研修生など、熊本で増加している層の外国人参加者には情報が届いていないようだった。また、初回のアンケートで、「ロコミ」「紹介」で教室のことを知った参加者も多く、ネットやチラシ配置だけではなく、実際に外国人のコミュニティに出向いて地道に宣伝活動を行うことも大切であることがわかった。

・テキストが、外国人参加者の独習には向かない作りになっていて、また、インターネット上に一部手引きが紹介されているものの、ボランティアが一人で活動案をたてるのにも難しいものである。テキストの抜本的な改善、そして手引きの充実が今後求められる。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

前期「今すぐ使える熊本日本語2015」日本語交流ボランティア養成研修／後期「今すぐ使える熊本日本語2015」地域日本語サポーター養成研修

(2) 目的・目標

・本事業で作成された日本語教材『今すぐ使える熊本日本語』改訂版を使って教えることができ、また地域の多文化共生意識を高めることのできる人材を養成する。県内全域から研修生を募り、その研修生と講師、そして研修生同士が良好な人間関係を築き、県をおおうネットワークを構築する。

(3) 対象者

・熊本県在住の日本人／外国人

(4) 使用した教材・リソース

・『今すぐ使える熊本日本語』改訂版

(5) 受講者の総数 29 人

【出身・国籍別内訳】

中国	0人	インドネシア	0人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。 ・ ・ ・
韓国	0人	タイ	0人	
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	0人	フィリピン	0人	
ネパール	0人	日本	29人	

(6) 開催時間数(回数) 17 時間×2期=34時間

(全 6回×2期 (2回(×0.5時間)×2期に関しては謝金対象外のため数えない))

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修テーマ	授業概要	講師名	補助者名
前期 1	H27.6.9(火) 19:00-21:00	2時間	熊本県立大学	11	座学1回目	・オリエンテーション ・熊本の在住外国人の現状と多文化共生	八木浩光	なし
前期 2	H27.6.16(火) 19:00-21:00	2時間	熊本県立大学	11	座学2回目	・「やさしい日本語」 ・地域日本語教室の役割	大庭理恵子	なし
前期 3	H27.6.23(火) 19:00-21:00	2時間	熊本県立大学	10	座学3回目	・テキスト『今すぐ使える熊本日本語』について ・グループで活動案を考える	泉千草	なし
前期 4	H27.6.30(火) 19:00-21:00	2時間	熊本県立大学	10	座学4回目	・活動案を考える(つづき) ・模擬授業&質疑応答	室屋暢美	なし
前期 5	H27.7.18(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	9	実践期フィードバック1回目	・第1週を終えての感想 ・各グループでの話し合い	泉千草	室屋暢美、大住葉子
前期 6	H27.7.25(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	8	実践期フィードバック2回目	「やさしい日本語」について 口頭での教室活動のフィードバック	泉千草	上村優季、大住葉子
前期 7	H27.8.1(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	6	実践期フィードバック3回目	「振り返りシート」「アドバイスシート」でのフィードバックに変更、記入方法の説明	室屋暢美	上村優季
前期 8	H27.8.8(土) 15:30-17:30	2時間	熊本県立大学	7	特別講義	・「やさしい日本語」の重要性 ・「にほんごこれだけ！」について	岩田一成	なし
前期 9	H27.8.22(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	4	実践期フィードバック4回目	「振り返りシート」「アドバイスシート」でのフィードバック	泉千草	室屋暢美
前期 10	H27.9.5(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	6	実践期フィードバック5回目	「振り返りシート」「アドバイスシート」でのフィードバック	泉千草	室屋暢美

前期 11	H27.9.12(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	5	実践期フィードバック6回 目	・養成研修を終えての感想 ・終了時アンケート	泉千草	室屋暢美
前期 12	H27.7.14(火) 21:00-21:30	0.5時 間	熊本県立大学	9	謝金対象外 実践期フィードバック①	各グループでの話し合い(授業 の準備)	(泉千草)	(室屋暢美)
前期 13	H27.7.21(火) 21:00-21:30	0.5時 間	熊本県立大学	9	謝金対象外 実践期フィードバック②	各グループでの話し合い(授業 の準備)	(泉千草)	(室屋暢美)
後期 1	H27.11.10(火) 19:00-21:00	2時間	熊本県立大学	18	座学1回目	・オリエンテーション ・熊本の在住外国人の現状と多 文化共生	八木浩光	なし
後期 2	H27.11.17(火) 19:00-21:00	2時間	熊本県立大学	17	座学2回目	・「やさしい日本語」 ・地域日本語教室の役割	大庭理恵子	なし
後期 3	H27.11.24(火) 19:00-21:00	2時間	熊本県立大学	16	座学3回目	・アイスブレーキング ・テキスト『今すぐ使える熊本日 本語』について	泉千草	なし
後期 4	H27.12.1(火) 19:00-21:00	2時間	熊本県立大学	18	座学4回目	・活動案を考える(つづき) ・模擬授業&質疑応答	室屋暢美	なし
後期 5	H.27.12.5(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	12	実践期フィードバック1回 目	・第1週を終えての感想 ・各グループでの話し合い	泉千草	室屋暢美、 大住葉子
後期 6	H27.12.12(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	13	実践期フィードバック2回 目	・「やさしい日本語」について再 度確認 ・「振り返りシート」「アドバイス シート」説明&記入(以降毎回実 施)	泉千草	室屋暢美、 上村優季
後期 7	H27.12.19(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	12	実践期フィードバック3回 目	・「やさしい日本語」について再 度確認	泉千草	室屋暢美、 上村優季
後期 8	H28.1.9(土) 15:30-17:30	2時間	熊本県立大学	12	特別講義	「やさしい日本語」について 地域日本語教室について	岩谷美代子	なし
後期 9	H28.1.23(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	10	実践期フィードバック4回 目	・地域日本語教室の抱える問題	泉千草	室屋暢美、 上村優季
後期 10	H28.1.30(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	9	実践期フィードバック5回 目	・地域日本語教室の抱える問題 (つづき) ・「教える側」「教えられる側」の 関係	泉千草	室屋暢美
後期 11	H28.2.6(土) 15:00-16:00	1時間	熊本県立大学	5	実践期フィードバック6回 目	・養成研修を終えての感想 ・終了時アンケート	泉千草	室屋暢美、 上村優季
後期 12	H27.12.8(火) 21:00-21:30	0.5時 間	熊本県立大学	17	謝金対象外 実践期フィードバック①	各グループでの話し合い(授業 の準備)	(泉千草)	(室屋暢美)
後期 13	H27.12.15(火) 21:00-21:30	0.5時 間	熊本県立大学	16	謝金対象外 実践期フィードバック②	各グループでの話し合い(授業 の準備)	(泉千草)	(室屋暢美)

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例①

【前期第8回 平成27年8月8日】

- ・受講生はグループに分かれて、自由に会話 ただし、一発話、15字程度を意識して会話
- ・うまくできたかどうか、全体で確認
- ・日本語学校と地域日本語教室の違いについてパワーポイントで説明しながら確認
- ・OPIの映像例をみながら、「日本語がうまい」とはどういうことを考える活動
- ・いわゆる「日本語がうまい」とは、文法や語彙の正確さではなく、流暢さにあることを確認し、そこを鍛えるためには、ボランティアが文法や語彙にばかり着目してはならないことを確認
- ・教材「にほんごこれだけ！」の使用例を映像で見ながら、「おしゃべり」を通して日本語学習を支援することを確認



取組事例②

【後期第8回 平成28年1月9日】

- ・在住外国人の現状をパワーポイントで説明
- ・地域日本語教室に求められていることについて受講生で考え、発表
- ・熊本県の日本語教室の実際と現存する県内の教室の紹介
- ・地域日本語教育の歴史をパワーポイントで説明
- ・これからの地域日本語教育に求められることと、ボランティアを考える人へのアドバイス
- ・「やさしい日本語」で話す練習
- ・文法や語彙などについて、教え方のヒントをパワーポイントで説明



(9) 目標の達成状況・成果

※検証方法:受講者への終了時アンケート、ヒアリング

- ・前期は運営側が意図していた「教えない日本語教室」「おしゃべりを通して日本人と外国人が分かりあう場」という日本語教室の形を、受講者に完全に理解してもらうことができず、「うまく教えられなかった」「もっと準備の時間がほしい」「負担が大きかった」などの意見が聞かれた。また、途中で参加を断念する受講者も数名いた。それを受けて、後期では事前に説明会を実施し、運営側の希望や理想とする教室像を伝えることができたため、辞退者も出なかった。
- ・「やさしい日本語」を常に意識するように、後期では教室活動そのもののフィードバックよりも「やさしい日本語」についてのフィードバックを多くした。その結果、「外国人を見ても日本語で話しかけられると思う」という声や「外国人への日本語での話し方がわかった」という意見が多数聞かれた。
- ・「地域日本語教室の理想／役割(「教えない」教室、相互学習、日本人と外国人が分かり合う場、など)」についても繰り返し触れたため、受講者の意識啓発ができた。後期は、教室外での受講者と参加者の関わりも見られるようになった。

(10) 今後の改善点について

- ・口頭でのフィードバックを廃止したことで、後期では受講者同士もすぐに打ち解け、自由な雰囲気を作り出すことができたが、反面、受講生からは「もっといろいろ教えてほしい」「質疑応答の時間がほしい」という声が聞かれ、物足りない人もいた。
- ・グループでの準備や話し合いがうまくいっていない受講生たちもいた。グループ内でも、誰が主導権を握るのかを事前に決めておいたほうが良い。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

『今すぐ使える熊本日本語』改訂版

(2) 対象

・日本語教室参加者(初級、母語は限定しない)

(3) 目的・目標

・昨年度(平成26年度)、本事業にて作成した『今すぐ使える熊本日本語』を、昨年度の参加者の意見を踏まえ改訂する。

(4) 構成 (総ページ数: 145 ページ)

・本学日本語教育研究室は平成23年度から熊本市国際交流振興事業団と連携、熊本に住む外国人のための日本語教材『「生活者としての外国人」のための日本語教材』を作成してきている。初年度には、緊急時編(地震と台風)、病院編、仕事編が完成し、事業団のホームページにアップされている。平成25年度は、買い物編、外食編、公共交通機関編と学校編を作成した。

これら7編の作成にあたっては、県内在住の外国人、外国人支援者に聞き取り調査、アンケート調査をし、熊本で暮らしていく上でどのような日本語と情報とが必要かを洗い出した。市内の病院、銀行、郵便局、バス・電車の営業所、学校等にも取材に行っている。どれも数多くの場面を取り上げ、情報、知識の量も多い。

昨年度、本事業において、7編を日本語教室用に改訂した『今すぐ使える熊本日本語』を作成し、日本語教室で利用した。参加者へのアンケート、聞き取り調査で判明した改善点に基づき、今年度は、60時間にあわせ、教材を改定する。

(5) 教材の具体的な活用方法

・受講生はグループにわかれ、各グループがテキストから1章ないし2章ずつを担当し、その内容にそった活動案を考え、副教材等も準備する。当日は、そのグループのメンバーが「リーダー」となり、教室活動を主導する。グループによって、ロールプレイをしたり、テキストの語句をパワーポイントで説明したり、テキスト内の表やクイズに書き込みをさせたりなど、テキストの活用方法は異なる。

(6) 具体的な活用例

(例)「外食編」

・テキストP.29～P.30の会話をリーダーがお芝居で見せ、パワーポイントで語句の確認。個別に練習した後、参加者が順にみんなの前で発表。

・テキストP.31の予約表に実際に書き込んでみる。

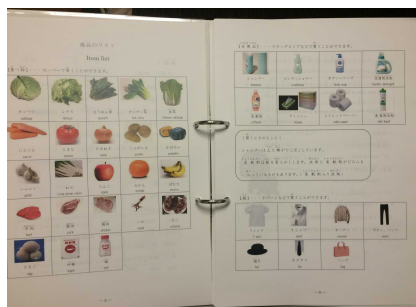
・テキストP.33～P.34の会話をリーダーがお芝居で見せ、パワーポイントで語句の確認。個別に練習した後、参加者が順にみんなの前で発表。

・テキストP.36～P.37のアレルギー食品一覧を見ながら、何か食べられないものはあるか、自由におしゃべり。

(7) 成果物のリンク先

<http://www.kumamoto-if.or.jp/education02/00home.html>

※最新版は編集中。編集が済み次第、アップロード予定。



8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ・熊本に根差した生活日本語教材を作成(改訂)、普及させる。
- ・熊本市地域在住の生活者としての外国人に熊本で暮らすための生活日本語を教授する。
- ・日本人に多文化共生の意識づけをし、外国人との交流のきっかけを提供する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

※検証方法:受講者と外国人参加者への終了時アンケート中、「参加者の声」項目より

- ・「やさしい日本語」や「地域日本語教室の理想／役割(「教えない」教室、相互学習など)」について繰り返し触れたため、受講者の意識啓発ができた。受講者は外国人との日本語でのコミュニケーションを積極的に実践できるようになっていた。
- ・ゼロ初級の外国人参加者も教室に迎え入れ、レベル差に関係なくみんなで学ぶという環境を作り上げたことで、最初とはまどっていた参加者も、「日本語でのコミュニケーションが苦痛ではなくなった」「日本人と日本語で話すことができるようになった」などと、日本語でのコミュニケーションを楽しんでいたことがわかった。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

このプログラムで使用した『今すぐ使える熊本日本語』作成のため、カリキュラム案を参考にした。カリキュラム案からそのまま教材作成はできず、案を参考に調査票を作り、生活者としての外国人やその支援者に対してアンケート調査を実施し、その結果を分析して、教材に盛り込むべき項目を洗い出した。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

熊本市役所、菊陽町役場、熊本市国際交流振興事業団、熊本県フィリピン人会から運営委員をむかえた。人材養成、日本語教室の運営に関するアドバイスをいただいたし、また、参加者募集のアナウンスをしていただいた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・フェイスブックを活用し、日本語教室のページを作ったことで、教室活動の様子を広く市内外の人に周知することができた。また、熊本市近郊の外国人関連コミュニティのフェイスブックページにチラシを投稿するなど、宣伝活動もフェイスブックが多かった。英語での投稿が多かったため、またコミュニティの共通語が英語だったため、前年度の参加者内訳と比べ、英語(母語)話者の参加が多かった。
- ・改訂版のテキストは、熊本市国際交流振興事業団のホームページにアップロード予定。

(6) 改善点、今後の課題について

- ・今回の外国人参加者の属性の偏りに関して、宣伝方法(インターネット中心の宣伝)の問題もあるが、むしろ本学の立地的な問題(中心部から遠い、アクセスが悪い)と、実施日時(火曜日の夜と土曜日の午後)が原因で、飲食店勤務の外国人や、車を持っていない研修生、配偶者、高齢の帰国者等、いちばん来てほしかった層に来てもらうことができなかった。問い合わせも多くあったものの、地理的・時間的条件が揃わず断念され、運営側もどうすることもできず歯がゆかった。出前教室や、よりよい教室時間(労働者層や小さい子供のいる家庭にも来てもらいやすい時間)の検討が必要である。
- ・テキストが独習に向かない。また、トピックについても、「ゴミ捨て」や「方言」を盛り込んでほしいとの意見が多く、今後もテキストの改善が必要。また、地理的・時間的な条件が原因で日本語教室まで出向くことが困難な人が、アプリやインターネット上でテキストの内容を独習できるよう、電子教材の開発も求められる。

(7) その他参考資料